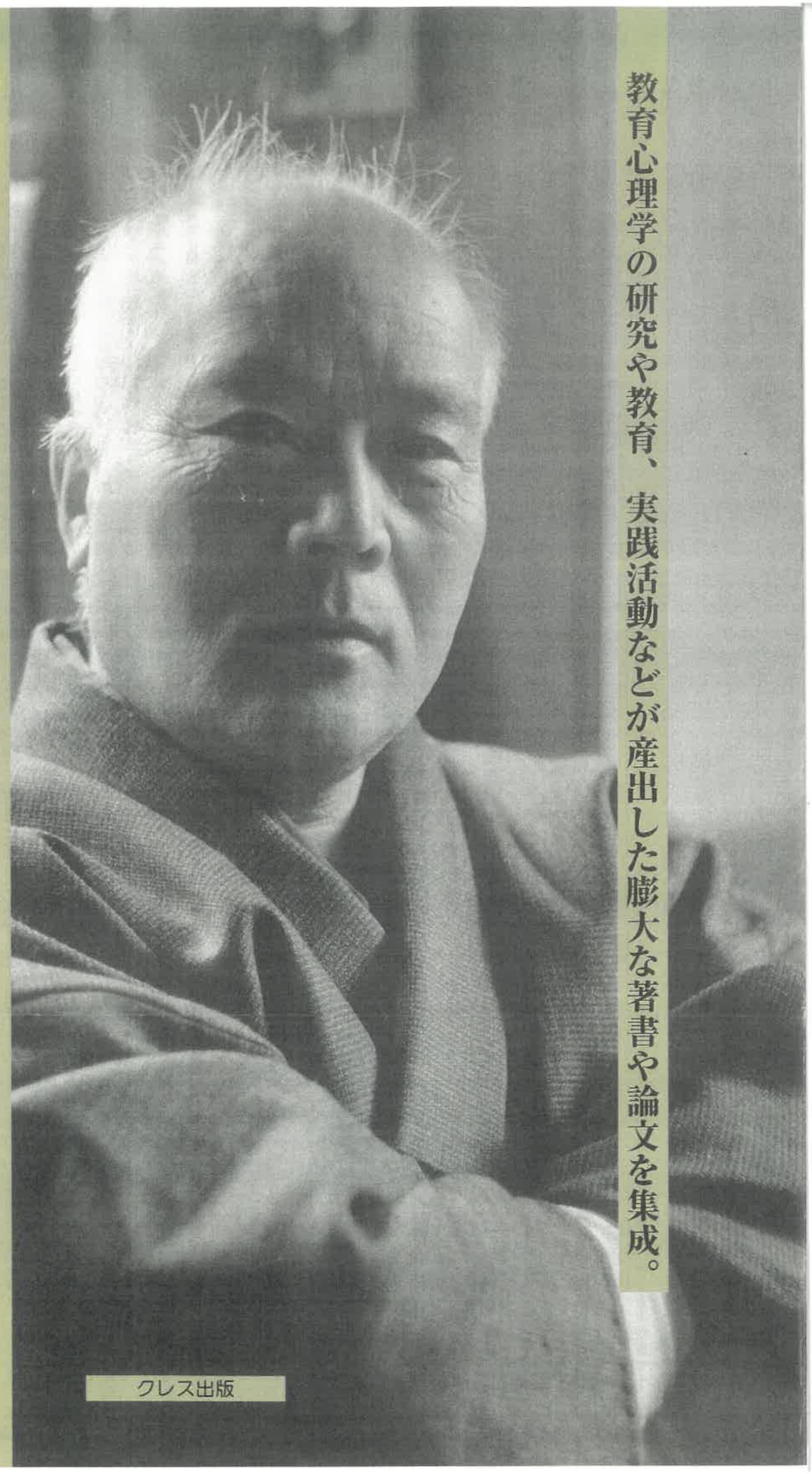
牛島義友著作選集

全五巻

安藤 延男 監修

教育心理学の研究や教育、実践活動などが産出した膨大な著書や論文を集成。



クレス出版

牛島義友著作選集　全五巻構成

第一巻　幼児保育・要支援児教育（山下　功　解説）

幼児保育

愛育の玩具（昭和18年）
玩具と生活、玩具と年齢、玩具と性格並に環境、玩具の統計、玩具の改善、幼児の遊び
幼児の玩具（昭和25年）
玩具と絵本（昭和31年）
愛育の絵本（昭和18年）
絵本と子供の生活、絵本の選び方
子供の言葉とお話（昭和18年）
子供の言葉、児童文の今昔、お伽噺
児童画の発達に就いて（昭和6年）
幼児教育の考え方（昭和31年）
乳幼児の精神の発達（昭和31年）
遊び指導の考え方（昭和31年）
三才児の精神発達にかかわるスクリーニングテスト及び精密検診の標準化に関する研究（昭和40年）
育児態度と子どもの性格との関係（昭和48年）

要支援児教育

コロニーの開所に当たって（昭和39年）
精神薄弱者のための幸福とは　――終生施設の必要性――
精神薄弱者が存在する意義（昭和45年）
家庭寮について（昭和47年）
ノーマリゼーション（昭和51年）
障害児全員就学の問題点（昭和53年）
障害児教育の方向（昭和54年）
精神薄弱児の適応に関する研究――精薄児の問題行動――（昭和44年）

第二巻　女子・家族（高畠克子　解説）

女子の心理（昭和18年）
女性心理学の問題（女性心理の問題、女性心理と偏見、女性観の調査、女性の知性、女性の性格）、女子の性格展開（女子の男性に対する態度、幼少年期の経験、女学校時代、愛情の経験）、女子の生活観（女性の本分論、女子の職業論、女子の結婚観、女子の教育観、婦人参政権問題）

家族関係の心理（昭和30年）
親子関係（母の心理、母性意識の成立、母の子に対する態度、母性観の発達、継母子の関係、ホスピタリズムと家庭の機能、育児態度と子供の性質、家庭教育）、夫婦関係・嫁姑関係（結婚生活への成熟、結婚生活の幸福度、結婚の条件、結婚生活の問題、離婚、嫁と姑、主婦の生活時間）
親子関係検査の作製（昭和48年）

第三巻　教育・人間形成（星野　命　解説）

信仰と教育（昭和18年）
日曜学校の教育効果、基督信者と宗教々育、宗教々育と宗教意識の発達、宗教意識発達の諸相

家庭教育と人間形成（昭和48年）
人づくりと社会、家庭づくり、父親中心から母親中心へ、母と子、家庭への要求、家庭と学校、遊びと仕事、道徳意識の発達、道徳的体験、教育的家庭環境、親の教育的態度、親の態度・行動と子どもの適応性
社会性の発達（昭和27年）
精神発達と教育（昭和28年）
発達段階の見方・考え方（昭和33年）
社会性の発達と環境条件（昭和33年）
性格と環境（昭和35年）
家庭と教育（昭和37年）
性格教育の目標と方法（昭和39年）
家庭における宗教的情操の教育（昭和43年）
教育評価の展開（昭和44年）
才能の早期発見（昭和44年）

第一巻『愛育の玩具』

玩具と性格訓練

人の性格は幼時に基礎が作られる。幼時は遊びの時代である故に遊びによつて性格が訓練され、構成されてゆく。遊びによつて好ましい生活訓練をし、好ましくない性質を矯正して行くとよい。

幼兒には清潔とか整頓が大切な生活訓練であるが、之は玩具を通してやるのが最も効果的である。一定の玩具箱にきちんとしまつておく事が生活訓練第一課である。スペンサーは子供が使つた後で玩具を元の場所にしまはなかつたら、次からは與へない方がよいと言つてゐる。

次に惡い癖、例へば指を吸ふ癖を矯正する場合、叱つたり、手に袋をつける樣な直接法よりも、吸はうとする場合に指を使ふ玩具を與へる方が有効である。體を動かして遊んでゐる時にはかかる癖は現れない。努めて注意を他にそらす事がかかる癖の矯正法である。

ものを壞して仕方のない子供は適當な玩具が無い爲に起る事もある。好奇

第一巻『障害児全員就学の問題点』

障害児全員就学の問題点

障害児全員就学の実現がいよいよ間近になったことは、障害児のために心から喜びをもって期待するとともに、我国の特殊教育の発達に一時期を画するものである。すべての障害児が適当に教育指導を受けるということは、権利であるとともに、当然のことであり、このために多くの教育施設、教師、教育費用が投ぜられて初めて福祉国家と言えよう。

それだけに、今回の企てがあらゆる障害のケースに対してもきめこまかく実行されることを望む。義務制の名のもとに、画一的な処遇とか、親の教育権や希望が無視されないことを願っている。この意味で次の二点を特に十分配慮してほしい。

一つは、施設で指導されている者の教育問題である。知能障害児のためには精薄児のための厚生省の施設がある。ここでは主として重度の障害を援助し、彼らにもっとも適すると思われる指導を行なっている。むろんこれは十分のものとは言えないかもしれない。しかし施設で指導をうけるだけでは、彼らの教育を受ける権利が満たされず、学校教育が必要であると考えるならば、ここには大きな問題があり、学校教育のみが教育であるという偏見が感じられる。知能の重度障害に対しては、学校的学習指導はほとんど不可能で、現在施設でしているような、生活指導が何よりも必要となってくる。これに対して、このようなやり方では教

第二巻『家族関係の心理』

第四章　母性観の発達

序

母性心理の研究に当っては、母性自身の心理と共に子供に映じた母の姿もまた重要な問題になることを忘れてはならない。母と子との間の種々な問題にはこの母の姿、子供が理解した母が関係する。同じ母が同じ態度で子供を育てていても、子供の目には絶えず母の姿は変化してゆく。このために完全に信頼していたものが、ときには反抗的に出たりする。また子供の心に焼附けられた母の姿こそ、彼の魂の故郷であり、異郷に一人淋しく過ごすときに、堕落の淵に臨んだときに、あるいは人生の臨終の機に鮮かに浮かんでくるのは母の姿であり、この母の想い出に慰められ、母の声に罪から改悛し、『お母さん』の臨終の一言の中に無限の思慕と感謝をこめている。かく母の姿は人々の生活の奥に在って強く働きかけている。この母の姿を研究するのが本研究の目的である。

このためには母の感化によって成功せる偉人や戦歿兵士の事例、感化院の記録などを捜し、よき逸話を拾い集めることも面白い方法である。しかしわれわれは平凡なる一人一人の心の中にこの母の姿を求めることとした。すなわち二〇才前後になっている青年達に幼時から今日までの母の姿を想い出してもらった。ただ母が好きだとか有難く感じているなどのことではなく、各時代において母がいかなる姿に映じていたかをできるだけ客観的に記述するように依頼した。

この課題は、青年たちに相当の興味を喚起した。今まで心の中に深く蔵い、無限の愛情を感じながらも、ついぞ客観化することの無かったものを、尽きせぬ想い出の中に筆を進めることは楽しい作業であったといえよう。各人の記

社会性の発達と環境条件

第一章　社会性の発達と環境条件

人の社会性はその生活、環境条件を通して育成されてくる。したがってこれらの生活諸条件について考察することは最初の課題となる。子どもたちが生活するおもな場は家庭、学校、仲間であり、この環境においてそれぞれ異

日本と西欧における態度形成の方向（昭和35年）

第四巻　青少年(一)（安藤延男 解説）

小学生の心理（昭和32年）
学童期研究の意義、原始性の否定（子どもからの要求、社会からの要求――学校教育）、文化性の否定（遊びの生活、社会生活、家庭生活）

青少年の心理と指導（昭和19年・厚徳書院版）
青少年の心理と指導、女子の心理と指導、勤労青少年の心理と指導、青少年への言葉――指導の一例

青少年の心理と指導（昭和24年・国土社版）
児童心理学の諸問題、青少年の心理、社会性の発達と指導教育、道徳意識の発達、個性の発達、女子の問題、農村青年の問題、生活指導と文化

児童青年の道徳意識（昭和7年）
少年の心理的発達（昭和26年）
児童青年の道徳意識（昭和32年）
児童における性的差異（昭和32年）

第五巻　青少年(二)（長谷川浩一 解説）

青年の心理と生活（昭和44年）
青年期、不安の構造、理念の探究、社会的独立、性と性格、学生生活、青少年問題

牛島　青年心理学
日本の青年における自我意識と社会意識の研究（昭和29年）
青年期の研究、青年期の意義、精神構造の展開、自我意識の発生―反抗、自我意識の昂揚―感情、自我意識の分化―理念、自我意識の社会化―職業、社会意識の再出発―孤独、社会意識の深化―エロス、社会意識の拡大

青年の人生観（昭和7年）
思春期の男女交際（昭和30年）
青年の道徳（昭和30年）

なった影響を受け、その社会性においても質的な変化を経験する。またこのような直接な対人的な関係のほかに、新聞、ラジオ、テレビ等のマス・コミを通してもまたかれらの社会意識は強く影響される。したがってここでは、家庭、学校、社会、マス・コミの四生活領域に分けて、その社会性と発達との関係を考えていきたい。

一　家　庭

幼児たちはまず家庭の中で育ち、親、兄弟、その他の人との人間関係の中で生活する。したがって対人的行動の最初のものは、この家庭で習得するのはいうまでもない。ところがこの家庭の中での生活を長く続けすぎると、逆に広い社会への適応が困難となり、非社会的な子どもとなってくる。したがって家庭は子どもの社会性を養う場であるとともに、非社会的にする要素も含んだものである。ゆえにこの二つの面を中心として考えていきたい。

1　家庭と社会性

(1)　家庭の社会的機能　近代社会においては家庭は著しく崩壊し、それは単なる私生活の場と変りつつある。完

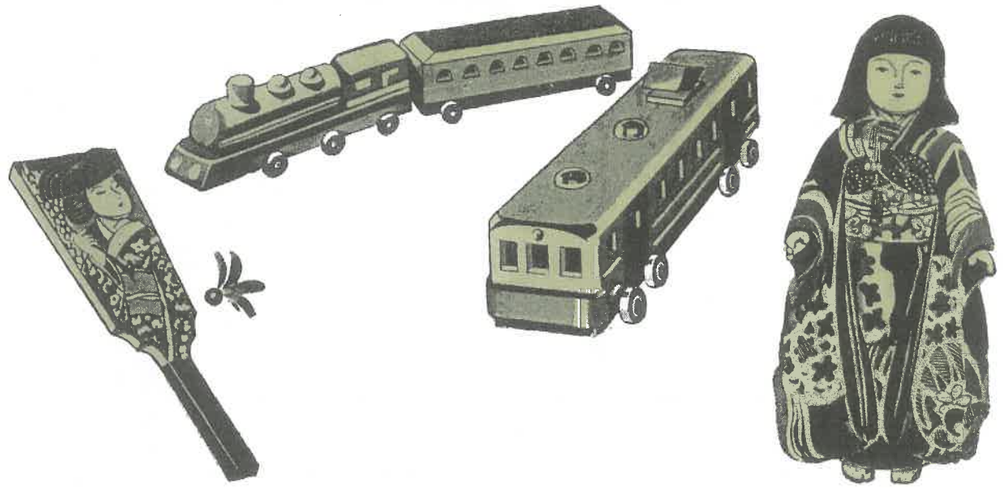
第一章　学童期研究の意義

第一節　児童心理学の盲点

第一項　学童期研究の貧困

発達心理学において小学生時代の研究は未開拓に近いと言うと、読者の中にはけげんな感をいだかれる者があるかもしれない。従来の児童の研究やテストは主に小学児童を対象にして行われていたではないかと反問されるであろう。いかにも小学生を対象とした研究はたくさんある。それにもかかわらず、学童期の特性を把握し、この期の独自の性格を解明した研究はきわめて乏しいのである。

従来の児童心理学の理論的興味は専ら幼児期に集中されており、それにつぐものは青年期であった。これに対し小学校時代にまともに取組む研究は少なかった。たとえば現代児童心理学の基礎を確立した一九二〇年前後の代表的業績たるシュテルン[1]やビューラー、ピアジェ等の研究はすべて幼児期に集中されている。シュテルンの書はその題名「年少児童期の研究」(1914)が示す如く、幼少児童期の心理として学童期には全然ふれていないし、カール・ビューラー[2]の「児童の精神発達」も精神機能の発達を主としているので、言語や知覚・思考等の理論的考察ならびにその原始的



刊行にあたって

九州大学名誉教授　安藤延男

「牛島義友著作選集」（全五巻）の刊行にあたり、この企画の概要を述べて読者の便に供したい。

著者・牛島義友教授は、一九〇六年に長崎県に生まれ、一九九九年、御殿場市で逝去された。その間、一九二八年東京帝国大学文学部心理学科を卒業し、翌年立教大学予科教授となる。一九四五年には東京女子高等師範学校（後の「お茶の水女子大学」）教授に転任し、さらに一九五〇年には九州大学文学部（兼任）教授、翌一九五一年、九州大学大学院で、教育心理学の研究・教育に尽瘁し、その発展に偉大な貢献をされた。

一方、牛島教授には、公式の教育・研究活動の外でのユニークな社会活動もある。その一つが、社会福祉法人野菊寮（所在＝静岡県御殿場市）の福祉施設の経営と展開である。この企画にいたる理由として恩賜財団愛育研究所で自らが開発した乳幼児精神発達検査に基づく発達相談事業の効用と限界を述べている。つまり、教育心理学は客観的に発達の遅れや障害を発見しても、後のフォローアップが十分にできていない。発達の遅れや障害を宣告されただけで終わるのでは本人も親も救われない。そこで自分は、障害者本人やその家族まで含めたケアの継続性維持のための福祉システムが不可欠だと考え「御殿場コロニー」の構想に辿り着いた、と。なお、現在の「社会福祉法人野菊寮」は、その発展である。

牛島教授が主唱したもう一つの社会活動は「教育と医学の会」による啓発活動と月刊雑誌『教育と医学』の編集・発行である。これらの活動は、一九五三年の夏に九州大学教育学部ならびに医学部の有志教員の参加のもとで発足し、今日なお継続中である。なお、会の主な事業は年一回の公開シンポジウム開催と機関誌『教育と医学』の発行12回（慶応義塾大学出版会発行）である。なお機関誌は、二〇一〇年三月現在で通巻681号（第58巻第3号）を数えている。

要するに、こうした牛島教授の教育心理学の研究や教育、実践活動などが産出した膨大な著書や論文が、この「牛島義友著作選集」（全五巻）を構成しているのである。生前著者はよく「自分の単行本が、身長と同じになったよ」といわれたものだ。ちなみに遺稿集『教育愛』（二〇〇一年、慶応義塾大学出版会）の巻末の主要著作リスト欄で数えてみたら、著書（単行本）37冊、辞典・事書類4冊、講座6編、心理テスト17種類、学術論文90編などであった。

遺稿集『教育愛』の副題は、「心理学から障害児教育への道程」となっている。実践と研究の統合を厳しく追及する視点とアプローチの発展に寄与できれば幸いである。

牛島義友著作選集　全五巻

安藤　延男 監修

第一巻	幼児保育・要支援児教育	定価15,000円(税別)	ISBN978-4-87733-525-0
第二巻	女子・家族	定価17,000円(税別)	ISBN978-4-87733-526-7
第三巻	教育・人間形成	定価17,000円(税別)	ISBN978-4-87733-527-4
第四巻	青少年（一）	定価17,000円(税別)	ISBN978-4-87733-528-1
第五巻	青少年（二）	定価16,000円(税別)	ISBN978-4-87733-529-8

A５判／上製函入クロス装／本文中性クリーム紙使用　平成22年４月末日刊行

揃定価82,000円(税別)　ISBN978-4-87733-530-4(セット) C3337

●クレス出版好評既刊書●

近世育児書集成

全10巻／小泉吉永編・解題

江戸時代には数多くの子育て書が登場し、様々な育児論が展開した。従来の方面では平凡社東洋文庫の『子育て書』が最も重宝だったが、原本を正しく理解するには翻刻上の限界もあり、同書に未収録の文献も多数存在することから、今回54点を影印復刻。

A5判／総4,850頁／揃定価95,000円／ISBN4-87733-349-5

近世礼法書集成

全15巻別冊１／小泉吉永編・解題

江戸時代の小笠原流関連書53点を武家礼法・庶民礼法・女性礼法・婚礼に分類・集録し、武家から庶民、あるいは女性礼法への広がりと礼法の変遷が一望できるように試みた初の集成。「小笠原流」がどのように形成され一般化したのか、庶民にいかに受容されたか。

A５判／総6,100頁／揃定価124,000円／ISBN978-4-87733-400-0

近世町人思想集成

全17巻／小泉吉永編・解題

江戸期を中心とした商人教訓書約60点を影印復刻し、さらに索引を設けることで、町人思想の変遷を一望できるように集成。近世の町人思想が近現代にいかなる影響を及ぼし、近世の庶民が何をどのように読んだのかを探る手がかりとなる。

A5判／総6,000頁／揃定価180,000円／ISBN978-4-87733-522-9

家庭文庫

全12巻別冊解説／上笙一郎・山崎朋子編纂

大正の初期に、当時の女子・高等教育のリーダーとして高名だった人たち、下田歌子・嘉悦孝子・吉岡弥生・棚橋絢子・津田梅子・矢島楫子・山脇房子・跡見花蹊・三輪田真佐子などが、〈婦人文庫刊行会〉という会を結成。この会が、江戸時代の女訓書を集成した『婦人文庫』（全12巻）に次いで、その近代版として編んだもの。〈女性思想〉を追究し〈家庭思想〉の展開を跡づけるためには必須の貴重文献。

四六判／総4,540頁／揃定価91,000円　ISBN4-87733-326-6

《女性原論》新婦人訓（成瀬仁蔵）、良妻賢母論（宮田脩）
《家庭原論》家政講話（嘉悦孝子）、家庭経済（和田垣謙三）
《家庭生活》理想の住宅（保岡勝也）、家庭衛生（吉岡弥生）
《家庭教養》家庭博物（石川千代松）、新美装法（藤波美蓉）
《家庭文化》家庭の娯楽（松浦政泰）、芸術講話（島村抱月）
《産育教育》児童の教養（三田谷啓）、童話の研究（高木敏雄）

日本の子ども研究

全Ⅲ期15巻別巻５／大泉溥編・解説

日本の児童研究がいかにして成立し、時代社会とのどんな緊張関係において展開してきたのか、不可欠な基本資料を体系的に網羅。

●第Ⅰ期　子ども理解の科学化　明治・大正期を中心に　476-5

第１巻	欧米児童研究の移植と初期の研究	定価19,000円
第２巻	児童観の進展と心理学への期待	定価22,000円
第３巻	発達研究の開拓と知能検査の翻案	定価22,000円
第４巻	大正新教育と学力評価	定価19,000円
別巻Ⅰ	近代日本の児童相談	定価13,000円

■第一回配本　第１巻～第４巻、別巻Ⅰ　全５巻　揃定価95,000円

第Ⅱ期　子ども理解の拡がりと試練（一）　481-9

第５巻	昭和初期の心理学と実践	定価22,000円
第６巻	一九三〇年代日本の児童研究	定価20,000円
第７巻	留岡清男の子ども研究と生活教育論	定価20,000円
第８巻	奥田三郎の子ども研究と治療教育方法論	定価20,000円

■第二回配本　第５巻～第８巻　全４巻　揃定価82,000円

第Ⅱ期　子ども理解の拡がりと試練（二）　486-4

第９巻	児童心理学の戦中と戦後	定価26,000円
第10巻	戦後児童心理学の再出発	定価25,000円
別巻Ⅱ	戦後の教育心理学の起点	定価21,000円
別巻Ⅲ	児童心理学の総括	定価23,000円

■第三回配本　第９、10巻、別巻Ⅱ、Ⅲ　全４巻　揃定価95,000円

■第四回配本　解説　487-1　定価5,000円

全Ⅱ期10巻別巻３　A５判／総14,500頁／揃定価277,000円

《日本人、育てのなかのしつけ論》文献シリーズ

全９巻／石川松太郎・山本敏子・藤枝充子編・解説

「しつけ」の歴史と将来の課題とを念頭において、明治から昭和末までの18文献を収録。教育学はもとより、心理学・社会学・民俗学・民族学・小児医学など広域におよぶ視角から選抄。

A5判／総4,560頁／揃定価90,000円　ISBN4-87733-327-X

第１巻　日本のしつけ、日本礼法史話
第２巻　婦女心得 躾と育、子供の躾方 一名育児憲法
第３巻　家庭教育 子供のしつけ方、実験 子供の躾け方
第４巻　女工の躾けと教育、女工の躾けは此呼吸から
第５巻　国民学校 躾の修練実践、国民学校 ヨイコドモの躾
第６巻　幼児の家庭教育、子どもの自由としつけ
第７巻　こどもの心理としつけ、幼児の心理としつけ
第８巻　巨視的しつけ法、しつけ
第９巻　言葉の教養 躾の変遷と現代の問題点、しつけ

〒103-0001　東京都中央区日本橋小伝馬町14--5　メローナ日本橋
☎03-3808-1821　FAX03-3808-1822　http://www.kress-jp.com/

●書店名

株式会社クレス出版